第16回　新たな地域精神保健医療体制の構築に向けた検討チーム	
平成23年5月20日	資料

医療法人社団平成会平成病院

坂本眞一先生提出資料

熊本県地域拠点型認知症疾患医療センター
～これまでの活動内容と今後の課題～

医療法人社団　平成会　平成病院
院長　坂本　眞一

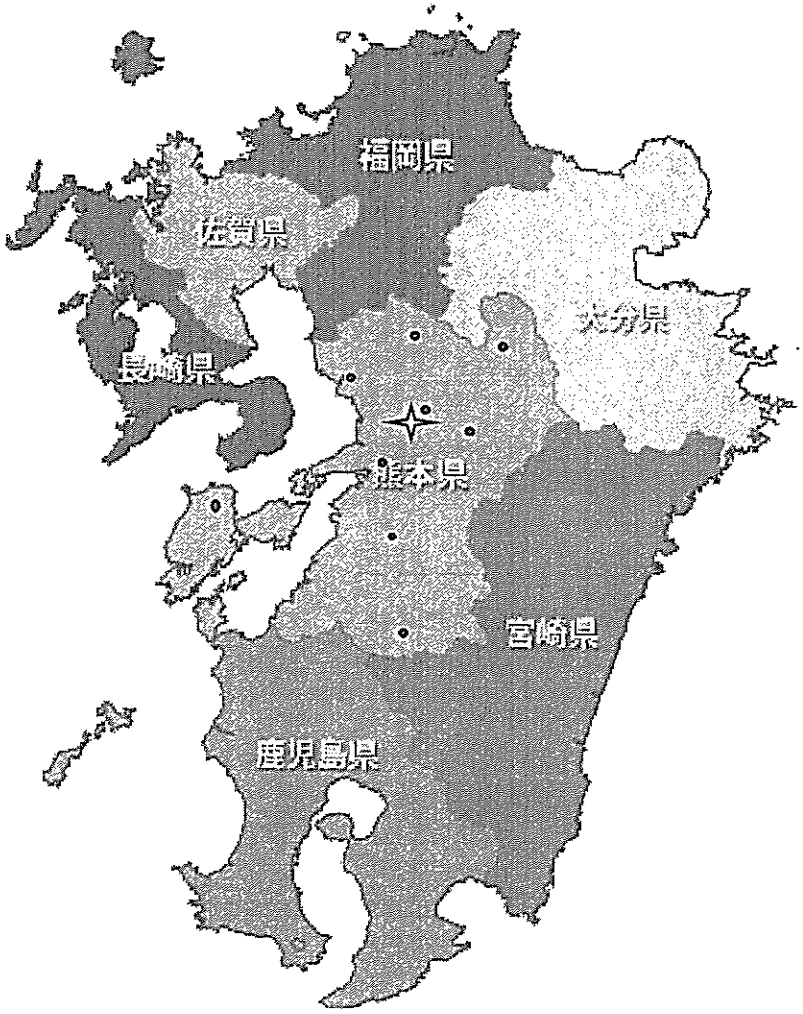
本日のプログラム

1. 八代市の現状（地域ネットワークへの期待）

2. 地域拠点型認知症疾患医療センターの活動状況

- ◆　もの忘れ相談手帳・受診手帳
- ◆　やつしろ認知症研究会

１.八代市の現状

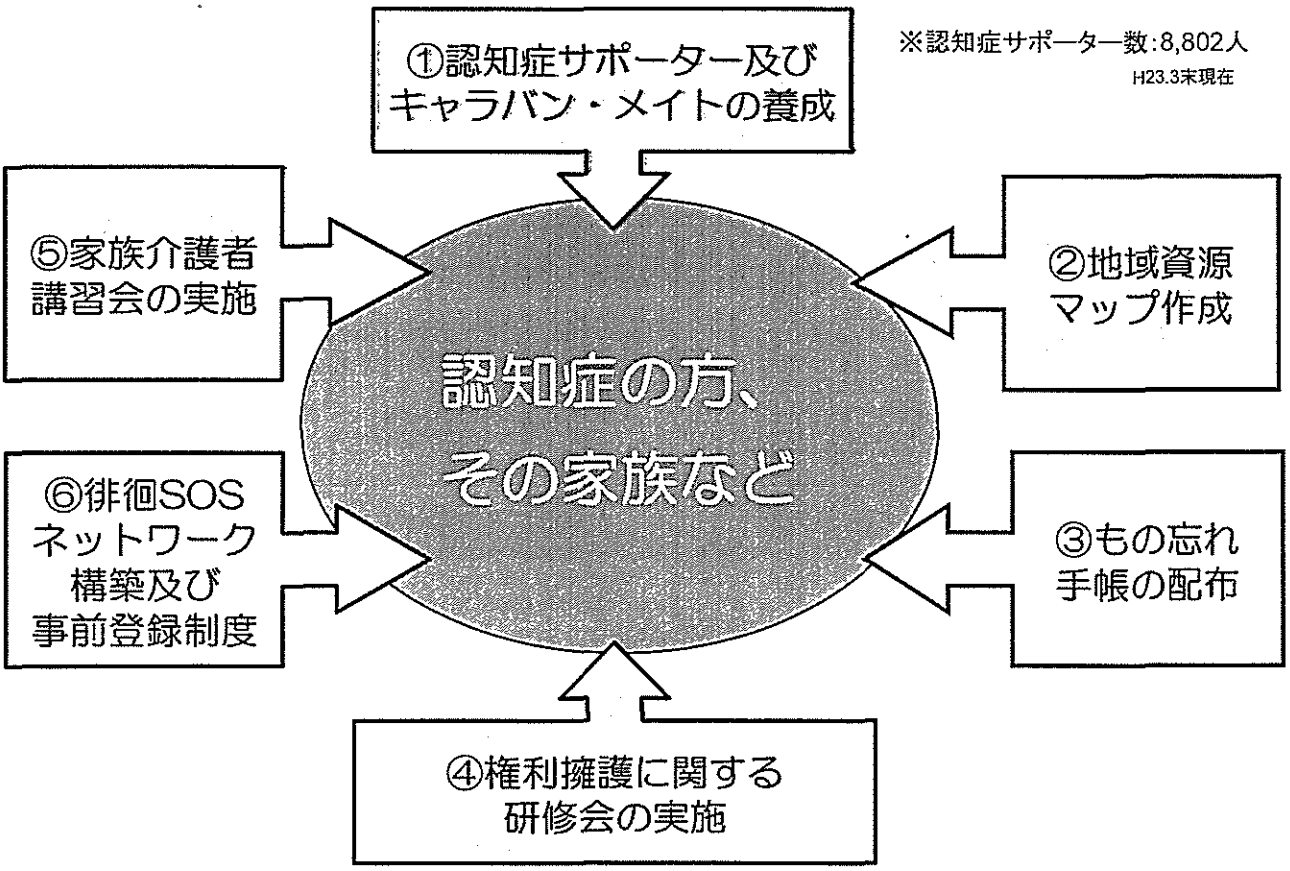


八代市の高齢者等の現状

平成23年３月末

全人口	133,706 人
高齢者人口 （高齢化率）	37,501 人 （28.0%）
前期　（65歳～74歳）	16,652 人
後期　（75歳以上　　）	20,849 人

認知症地域支援体制構築モデル事業として



2.地域拠点型認知症疾患医療センターの活動状況

具体的な活動状況　①

～センターとして～

・専門医療相談により、鑑別診断とそれに基づく初期対応

・身体合併症や周辺症状への急性期対応

・受診拒否時の医師による訪問医療相談

・事例検討会、研修会の開催

⇒**やつしろ認知症研究会**

具体的な活動状況　②

～連携担当者～

・電話、来院での専門医療相談、また必要により訪問医療相談に対応。

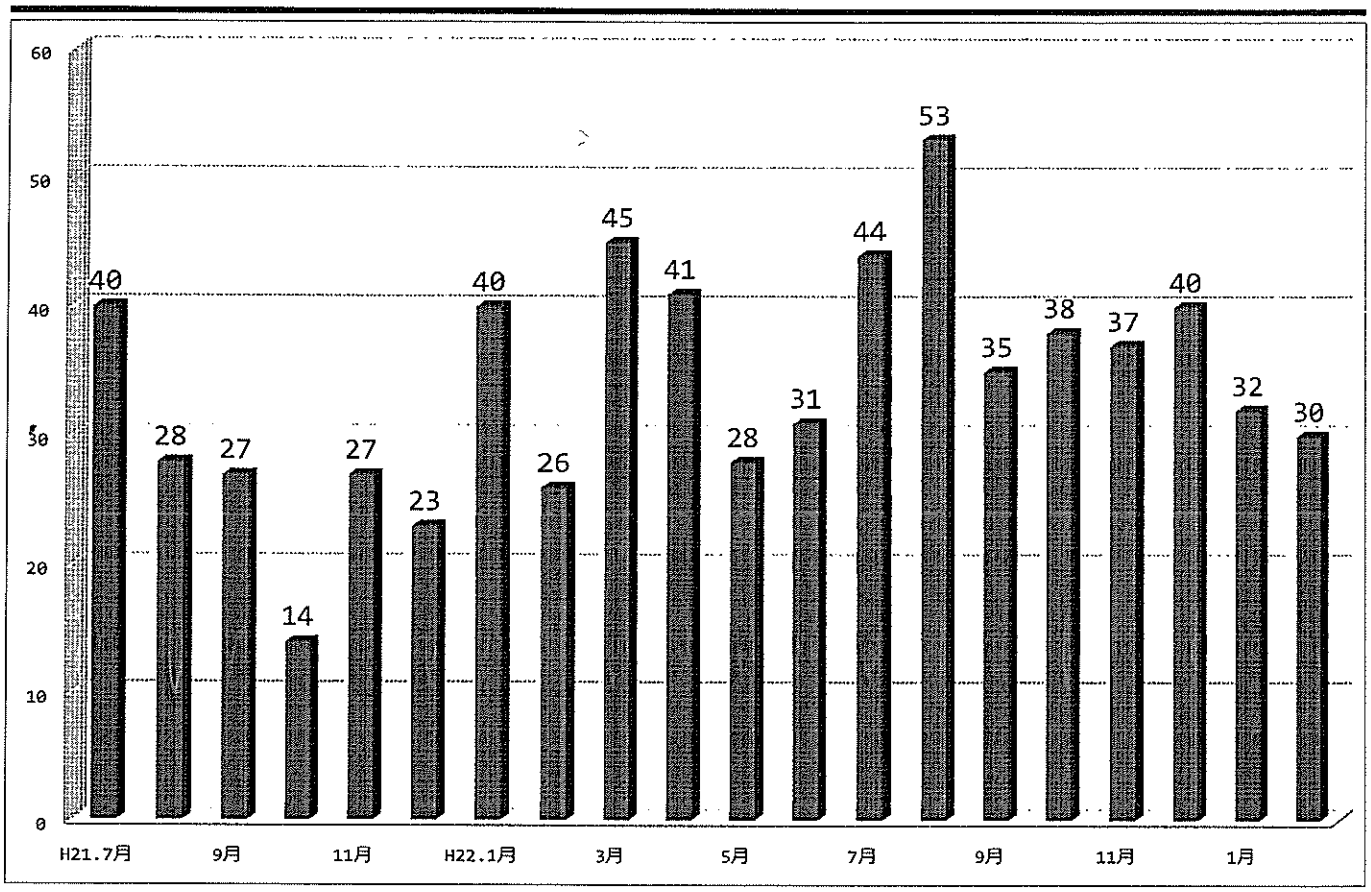
・受診時期の判断(急な悪化や周辺症状により)

・各包括支援センターへの定期的訪問

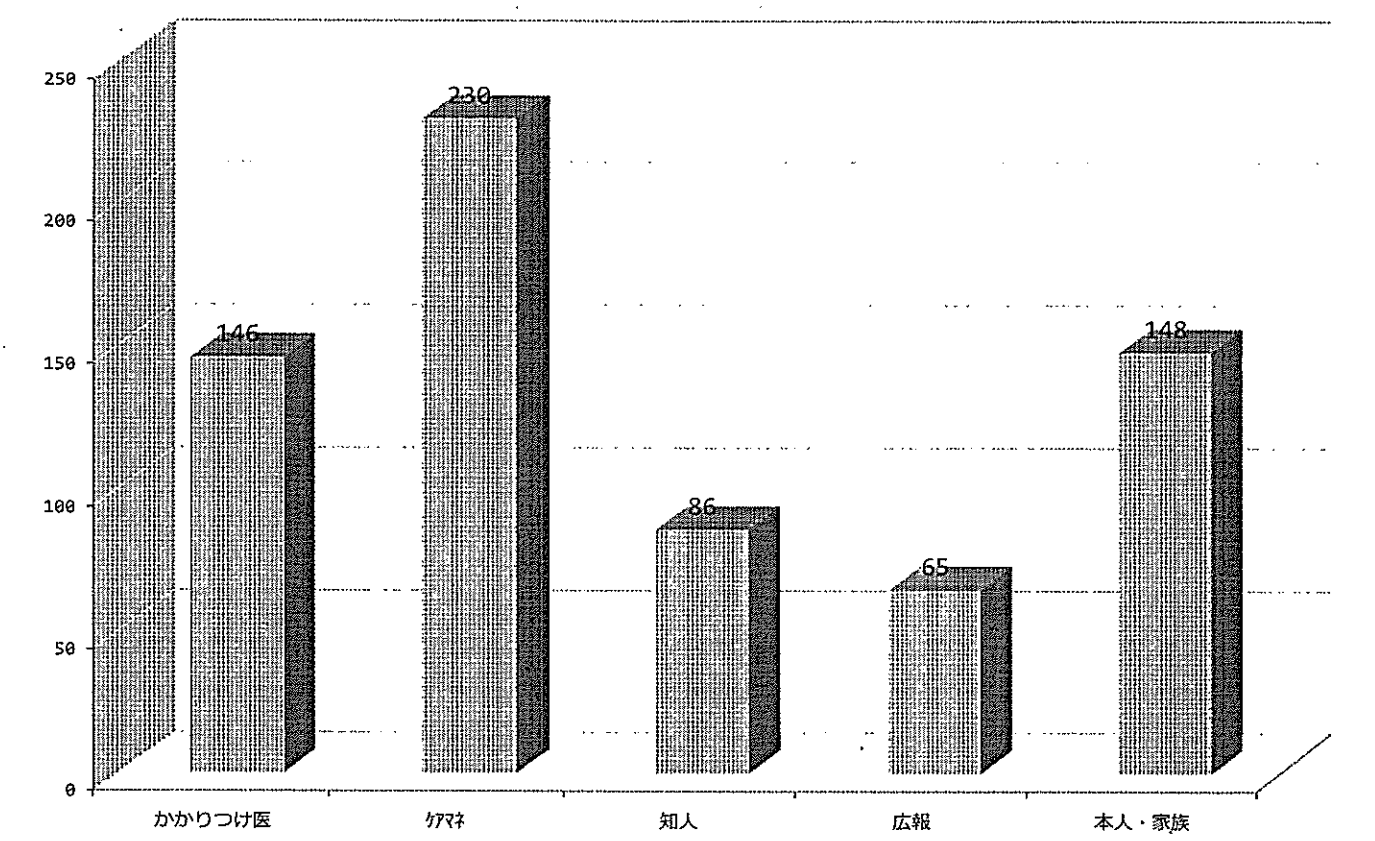
・必要により、他施設・病院との連携

・各包括支援センターと認知症サポーター養成講座や事例検討会開催の企画

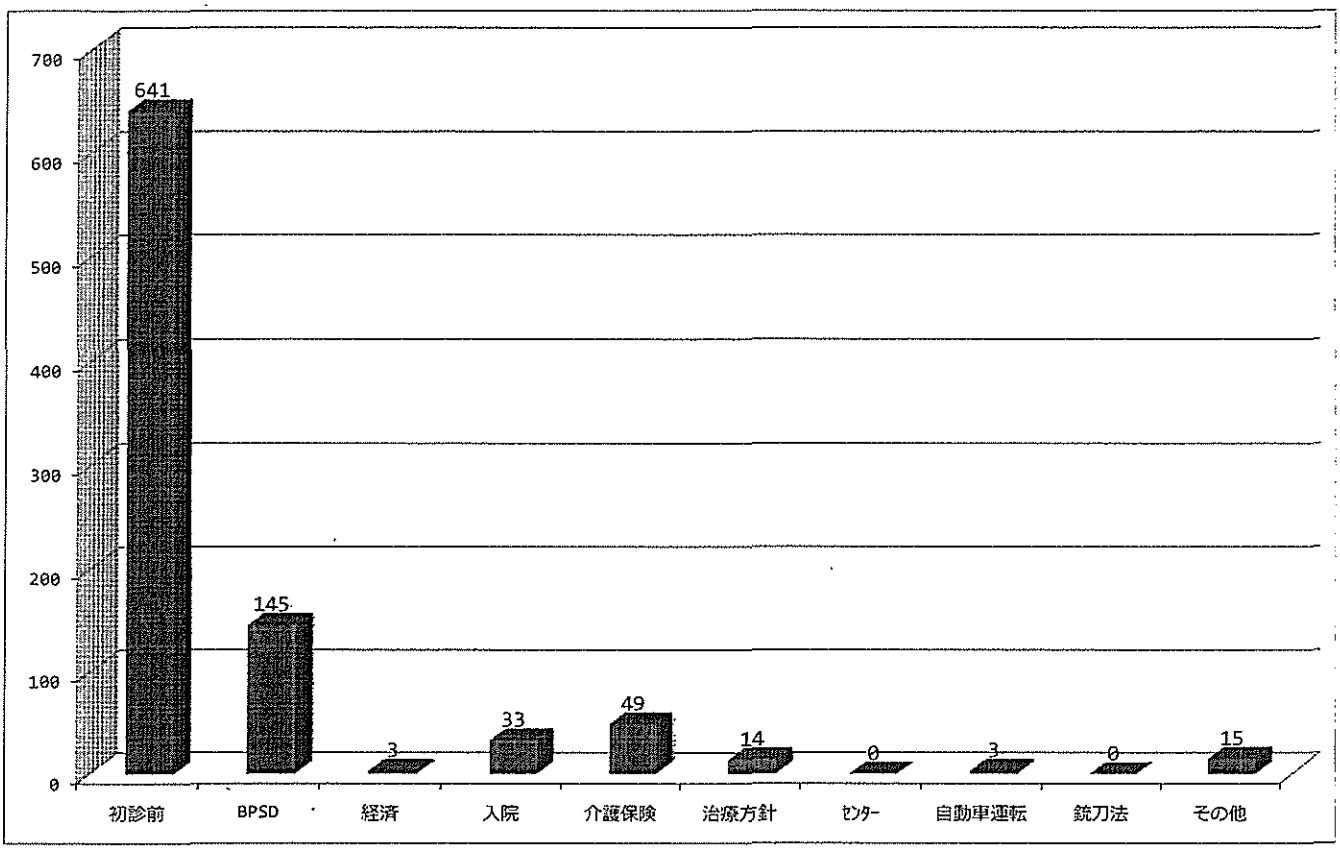
相談件数


60
50
40
30
20
10
0
40
28
27
14
27
23
40
26
45
41
28
31
44
53
35
38
37
40
32
30
H21.7月
9月
11月
H22.1月
3月
5月
7月
9月
11月
1月

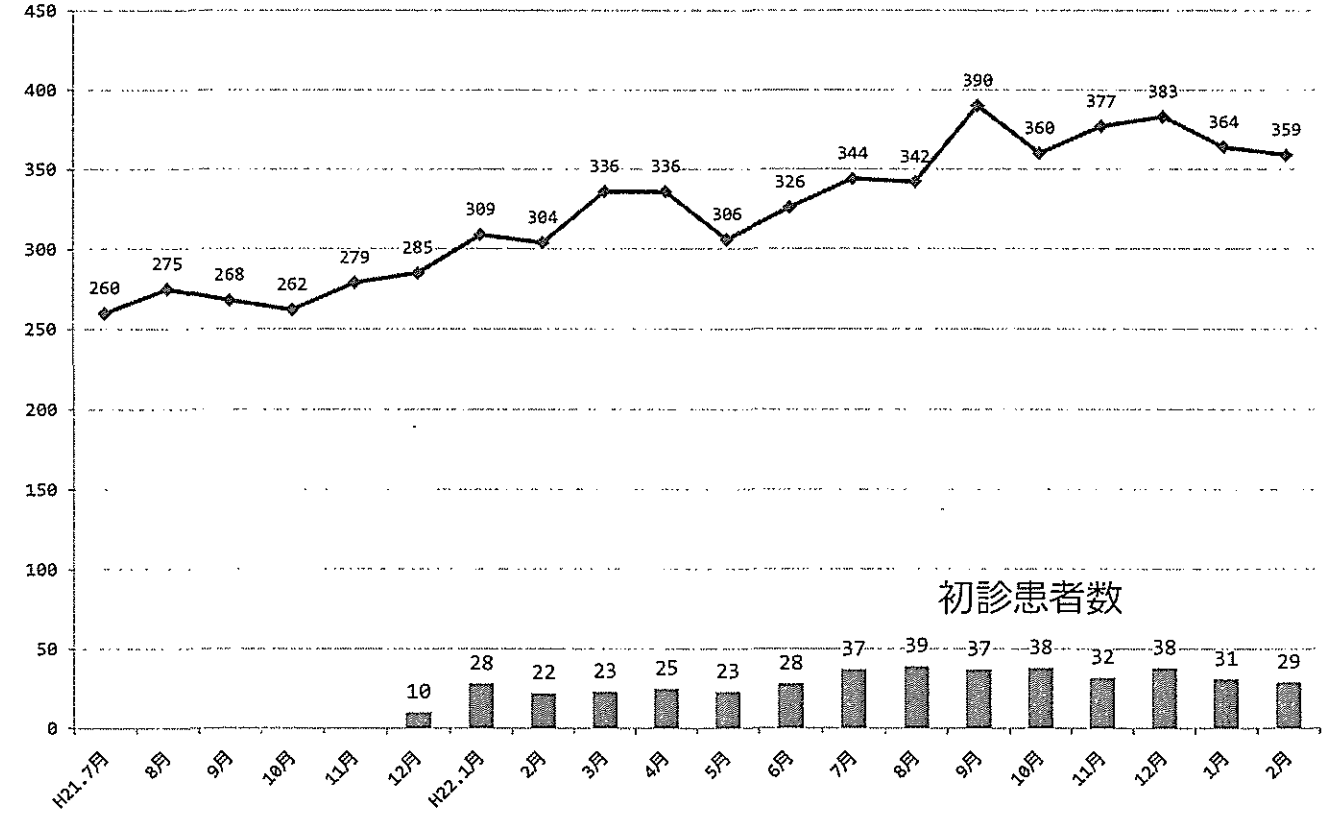
相談経緯


250
200
150
100
50
0
146
230
86
65
148
かかりつけ医
ｹｱﾏﾈ
知人
広報
本人・家族

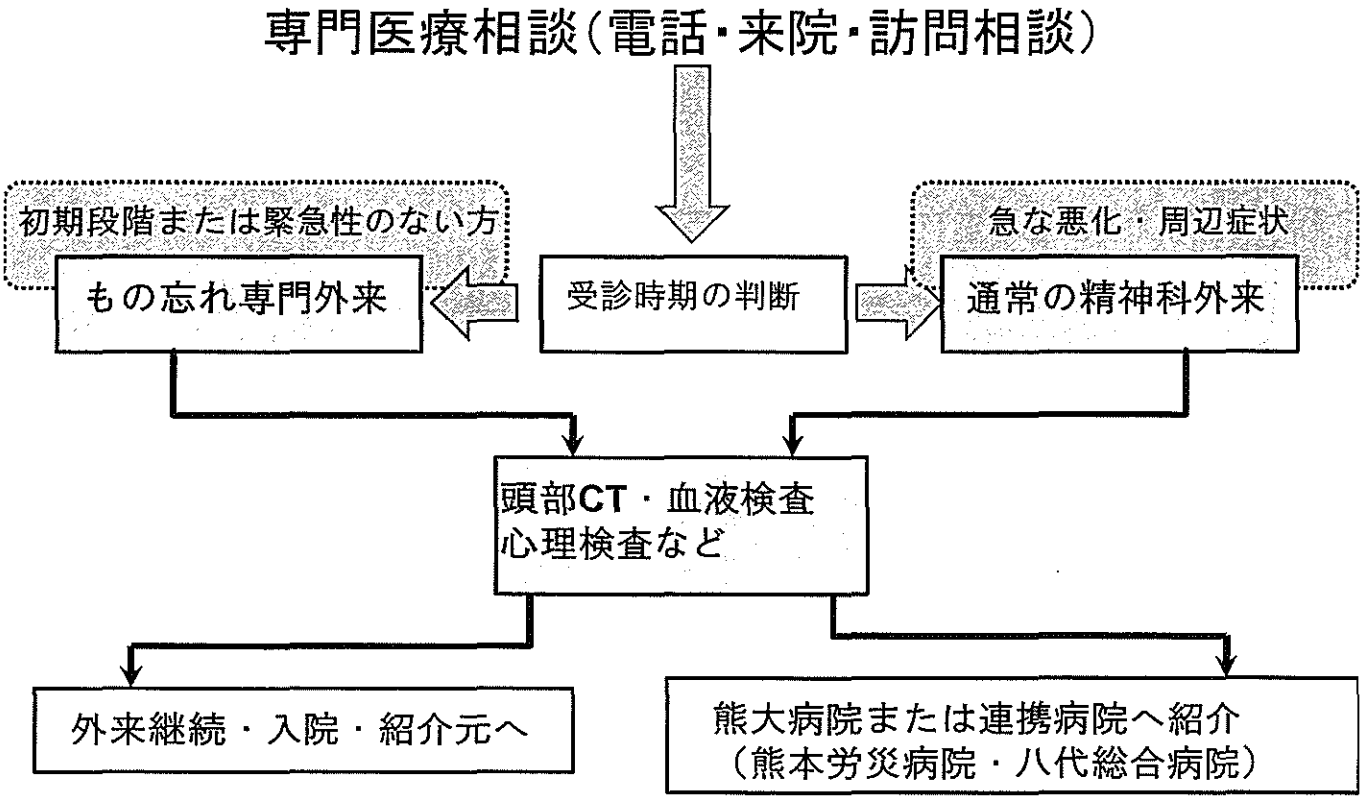
相談内容



認知症患者来院数



予約から受診までの流れ



当認知症疾患センターの成果

1．啓発活動等により、地域の方々の認知症に対する

2．包括支援センターへ月1回訪問をしていることにより顔のみえる関係ができ、受診につながり、その後の連携が取り易くなった。

3．定期的研修会、講演会、事例検討会の開催により、かかりつけ医、ケアマネージャーからの相談件数が増加

◆　やつしろ認知症研究会

やつしろ認知症研究会の目的

認知症に関する学術的な研究を推進するため、関係機関との連携を図ることによって、認知症の予防、早期発見、治療及び介護等の充実を発展に寄与することを目的とする。

やつしろ認知症研究会世話人一覧

顧問

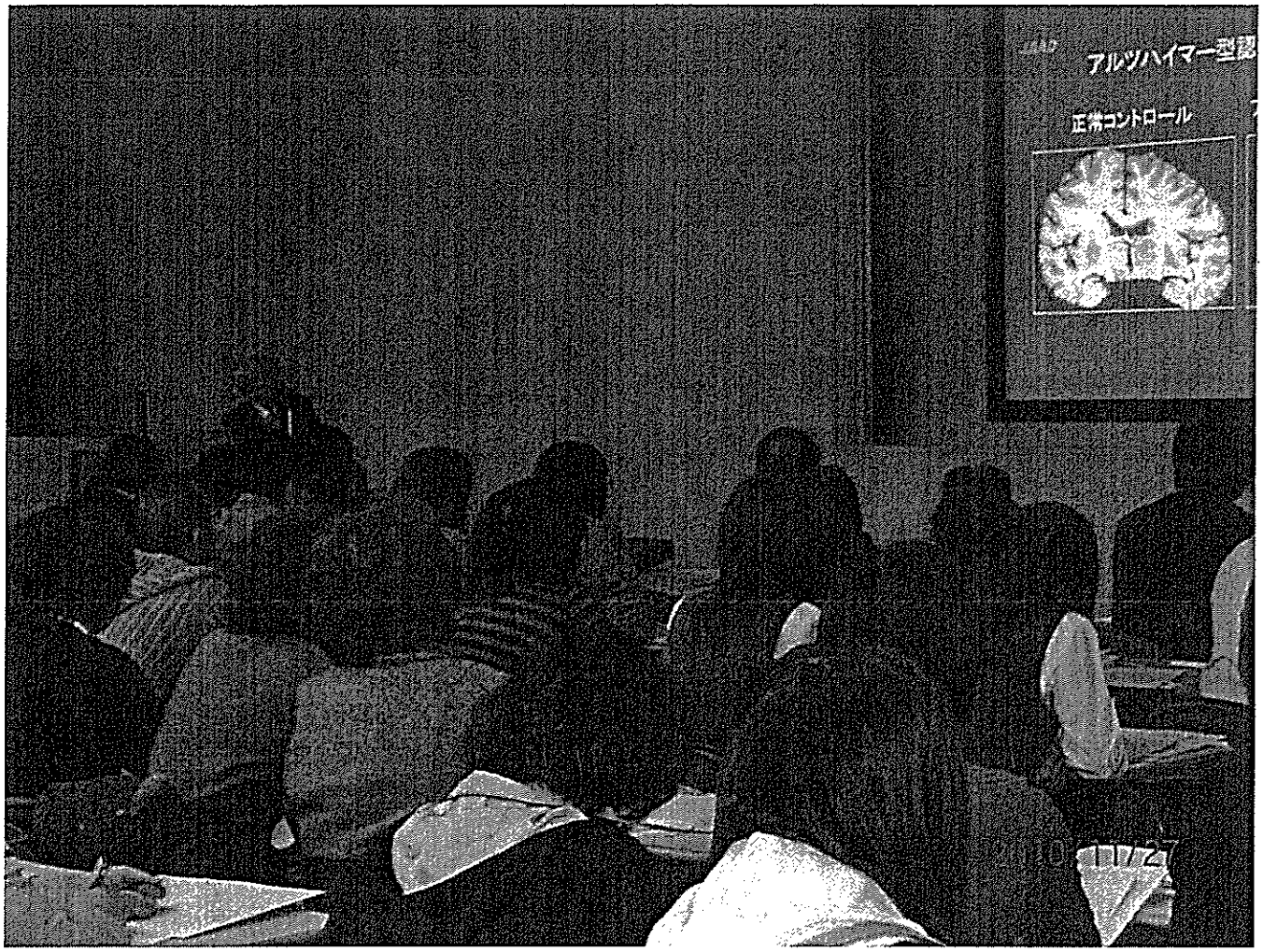
宮村　博文	八代市医師会会長	宮村医院　院長
尾田　正幸	八代郡医師会会長	医療法人　社団幸済会　尾田内科医院　院長
橋本　衛	熊大付属病院 神経精神科　助教	医療法人社団　平成会　平成病院　非常勤医師

世話人

藤井　繁	医療法人　カジオ会　八代病院　副院長
西　文明	西医院　院長
松本　展武	医療法人社団　司会　松本医院　院長
國岡　雄幸	八代市　健康福祉部　高齢者支援課　課長
松本　篤子	医療法人社団　司会　介護老人保健施設　かがみ苑　施設長
永田　いつ子	グループホーム　あい　管理者
坂井　智子	八代市地域包括支援センター　とまと　センター長
中山　里美	八代市医師会　訪問看護ステーション　管理者
濱田　サチエ	居宅介護支援事業所　キッポー　代表
坂本　眞一　（代表世話人）	医療法人社団　平成会　平成病院　院長

やつしろ認知症研究会

	期日・場所	講演	講師	出席者数
第1回	平成19年11月10日 （土） やつしろﾊｰﾓﾆｰﾎｰﾙ	現場に生かす認知症ケア ～原因疾患を踏まえた 専門的アプローチ～	熊本大学医学部付属病院 精神神経科 助教　橋本　衛 先生	６１１名
第2回	平成20年6月14日 （土） 八代厚生会館	大牟田市における認知症の取り組み	大牟田市保健福祉部 長寿社会推進課 課長　池田　武俊 氏	３７２名
第3回	平成20年11月22日 （土） やつしろﾊｰﾓﾆｰﾎｰﾙ	認知症の人の理解とケアの 可能性に向けて	認知症介護研究 研修東京センター 主任研究主幹 永田　久美子 先生	４５５名
第4回	平成21年9月25日 （金） やつしろﾊｰﾓﾆｰﾎｰﾙ	認知症の人が住みなれた地域で 暮らし続けるために	大牟田市認知症ケア研究会 代表　大谷　るみ子 先生	４７０名
第5回	平成22年3月5日 （金） やつしろﾊｰﾓﾆｰﾎｰﾙ	成年後見制度について	瀬高司法書士事務所 司法書士　瀬高　輝大 先生	２１０名
第6回	平成22年9月17日 （金） やつしろﾊｰﾓﾆｰﾎｰﾙ	「ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ型認知症の治療」 ～患者さんも介護者もより良い 生活をおくるために～	田北ﾒﾓﾘｰﾒﾝﾀﾙｸﾘﾆｯｸ 院長　田北　昌史 先生	３６７名
第7回	平成23年3月18日 （金） やつしろﾊｰﾓﾆｰﾎｰﾙ	認知症の早期発見から 早期治療・ケアにむけて	鳥取大学医学部保健学科 生体制御学講座 環境保健学分野 教授　浦上　克哉 先生	２３６名



八代市医師会　認知症講習会

回	開催日	テーマ	
1	平成21年1月21日(水) 会場：八代市医師会館 出席：３３名	特別講演	座長：坂本病院 副院長　坂本 眞一 先生 「かかりつけ医に求められる認知症の早期発見と診断」 熊本大学医学部神経精神科　助教　橋本 衛 先生
2	平成21年1月24日(火) 会場：八代市医師会館 出席：１３名	特別講演 ビデオ上映	座長：坂本病院 副院長　坂本 眞一 先生 「かかりつけ医に求められる認知症の早期発見と診断」 熊本大学医学部神経精神科　助教　橋本 衛 先生
3	平成２１年１０月２日（火） 会場：八代市医師会館 出席：２９名	特別講演１ 特別講演２	座長：平成病院 院長　坂本 眞一 先生 「脳血流シンチグラフィー～認知症の鑑別を中心に～」 熊本労災病院 放射線科　部長　矢村 正行 先生 「脳萎縮のＭＲＩ診断について」 八代総合病院 放射線科　部長　門口 正貴 先生
4	平成２２年６月１４日（月） 会場：八代市医師会館 出席：25名	特別講演	座長：平成病院 院長　坂本 眞一 先生 「認知症診療におけるHDS-R、MMSEの有用性について」 熊本大学医学部付属病院 神経精神科 小川 雄右 先生

認知症事例検討会

八代地域包括支援センター、圏域の居宅事業所等、認知症疾患医療センターが困難事例等を共に考えることで、認知症の方が地域で暮らせるよう、より良い介護やサービスの提供が行えるよう、連携を図る目的で開催。

平成２２年１１月２７日（土）

会場 ： やつしろハーモニーホール　大会議室B

出席 ： 80名

・認知症事例発表

①「ｷｰﾊﾟｰｿﾝが定まらず、ﾍﾞｰｽに精神的気質がある困難事例」

②「暴力的で常同行為を繰り返す入居者の介護を通して学んだこと」

③「配偶者・子どものいない１人暮らしの認知症をもつ方への支援のあり方について　～本人の権利擁護とキーパーソン～」

・熊本県地域拠点型認知症疾患医療センターについて
～県南地域の現状と課題～

平成病院(地域拠点型認知症疾患医療センター) 院長 坂本 眞一 先生

平成23年度　認知症事例検討会予定

開催予定日	担当
5月２４日（火）	八代地域包括支援センター　とまと
6月２８日（火）	八代地域包括支援センター　あさひ園
8月	八代地域包括支援センター　ゆうりん
9月	八代地域包括支援センター　安寿の里
1月	八代地域包括支援センター　くまがわ
2月	八代地域包括支援センター　みなみ

民生委員・児童委員全体研修会

日時　：　平成23年2月24日（木）　13:00～

場所　：　やつしろハーモニーホール

内容　：　八代市の民生委員・児童委員320名を対象とした研修会で認知症について講演。認知症疾患医療センター、やつしろ認知症研究会についても触れ、地域ネットワークづくりの必要性の周知を図った。

次回、5月24日（火）予定。（旧坂本村の民生委員・児童委員を対象）

認知症の方の家族介護者交流会

平成２２年１１月９日（火）　１４：００～１６：００
会場：やつしろハーモニーホール　多目的ホール

講演：「認知症の夫を看とった日々」
講師：認知症の人と家族の会 福岡県支部
世話人　岩切 裕子 氏

座談会：若年性認知症の当事者、介護者、関わっているスタッフも含め、日頃のストレス緩和を図り、介護方法や不安に対しての意見交換を行った。

他の地域拠点型認知症疾患医療センターとの交流

日時 ： 平成22年12月18日（土） 14:00～

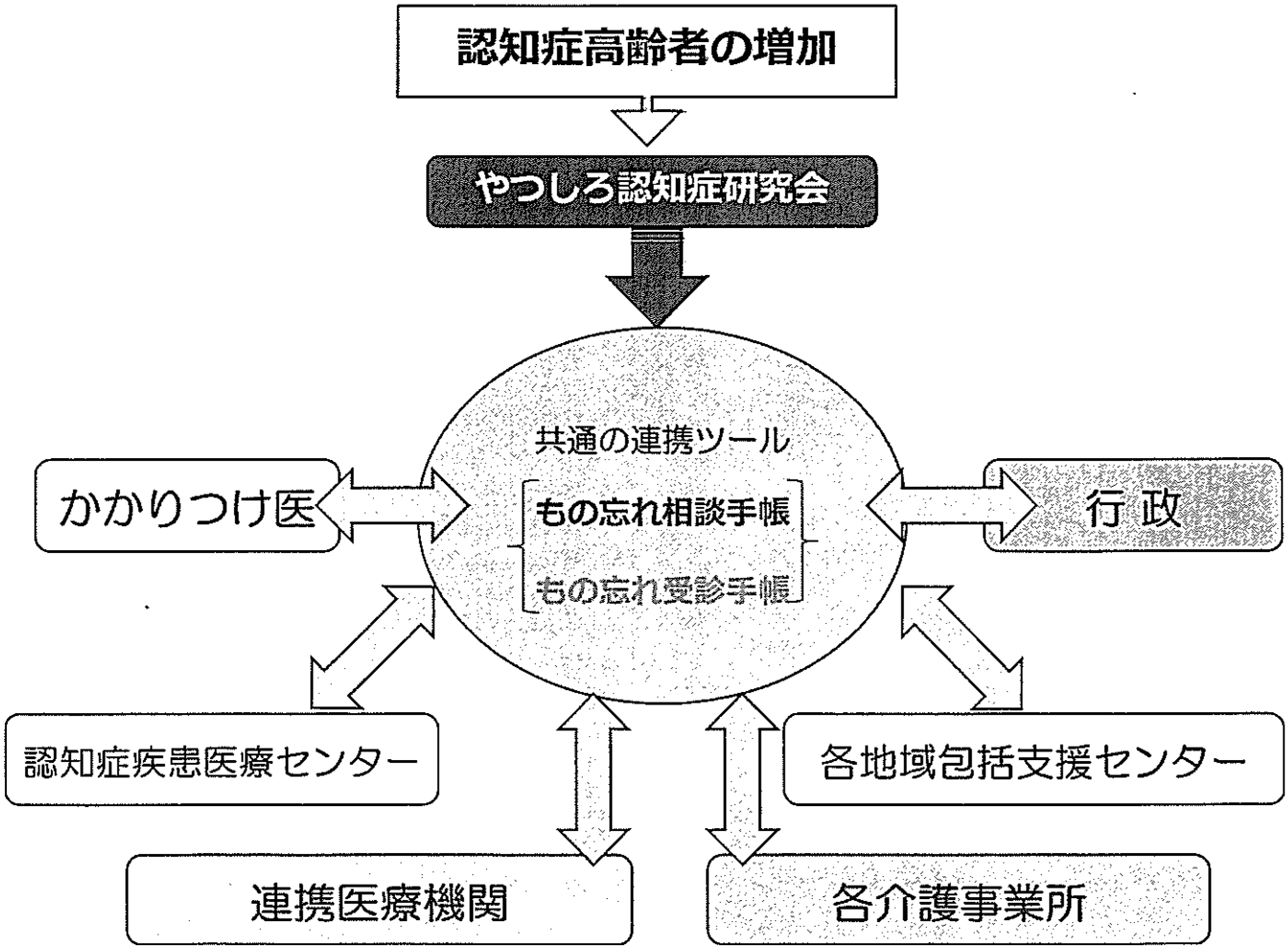
場所 ： 御船カルチャーセンター

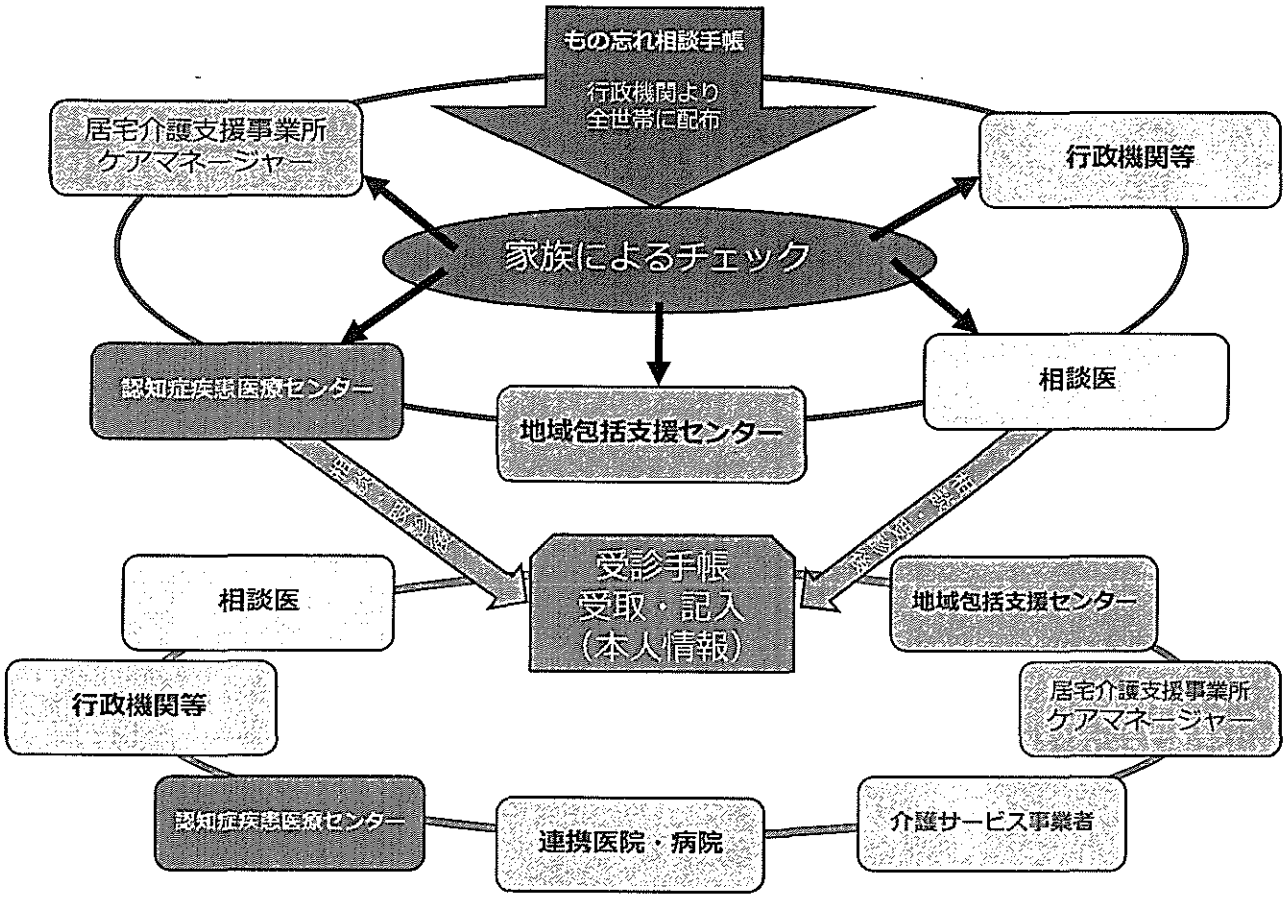
内容 ： 益城病院（地域拠点型認知症疾患医療センター）
益城町認知症強化型地域包括支援センター等の
共催による『上益城郡認知症セミナー』で講演。
八代エリアでの認知症への取り組み状況を報告

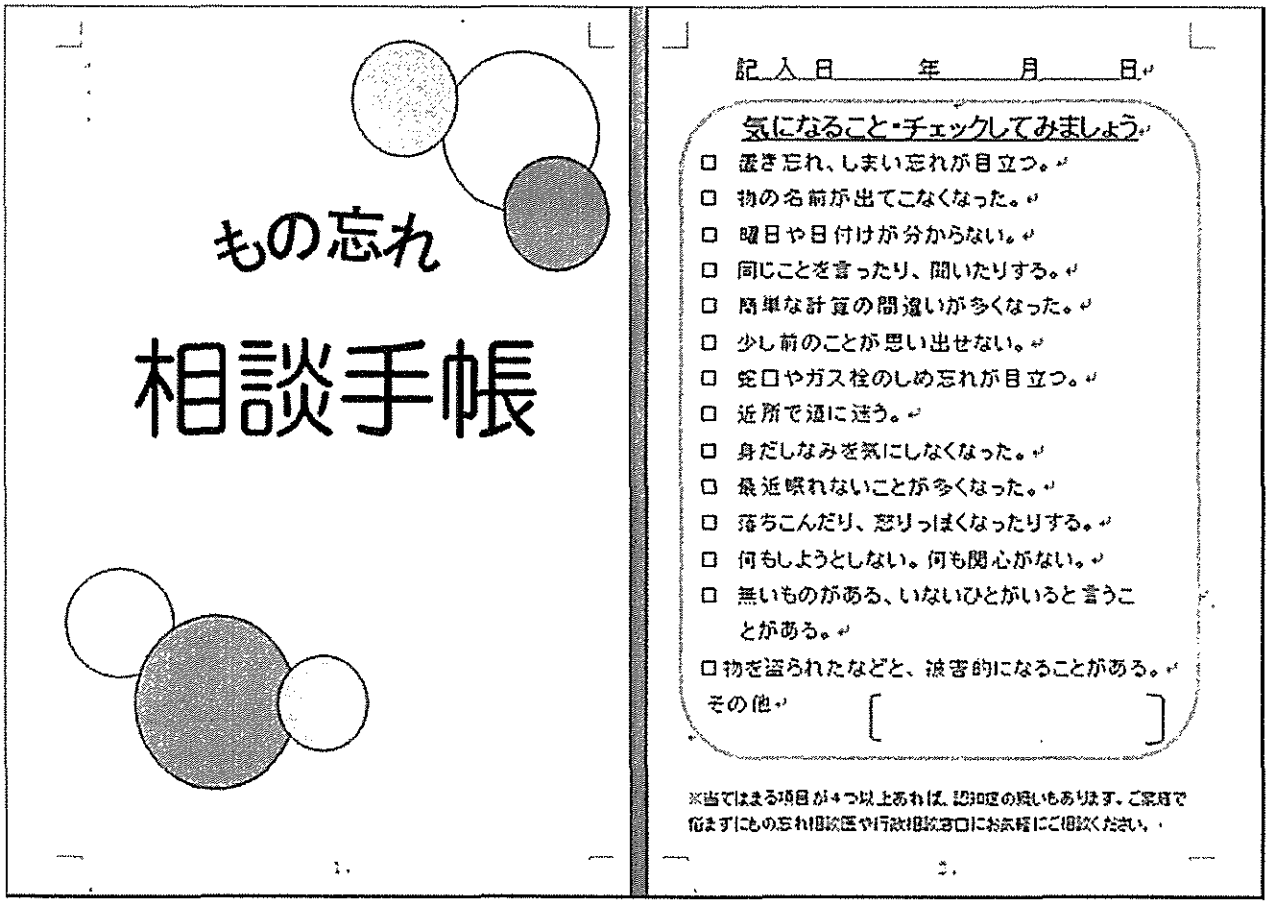
連携ツールの作成

もの忘れ相談手帳

もの忘れ受診手帳







もの忘れ

相談手帳

記入日　　年　　月　　日

気になること・チェックしてみましょう

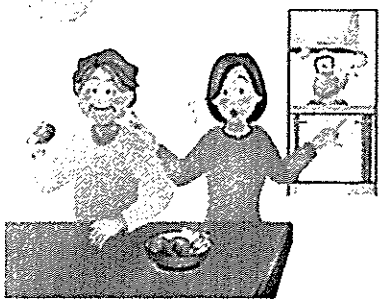
- □ 置き忘れ、しまい忘れが目立つ。
- □ 物の名前が出てこなくなった。
- □ 曜日や日付けが分からない。
- □ 同じことを言ったり、聞いたりする。
- □ 簡単な計算の間違いが多くなった。
- □ 少し前のことが思い出せない。
- □ 蛇口やガス栓のしめ忘れが目立つ。
- □ 近所で道に迷う。
- □ 身だしなみを気にしなくなった。
- □ 最近眠れないことが多くなった。
- □ 落ちこんだり、怒りっぽくなったりする。
- □ 何もしようとしない。何も関心がない。
- □ 無いものがある、いないひとがいると言うことがある。
- □ 物を盗られたなどと、被害的になることがある。

その他　[　　]

※当てはまる項目が4つ以上あれば、認知症の疑いもあります。ご家族で恐れずにもの忘れ相談医や行政相談窓口にお気軽にご相談ください。

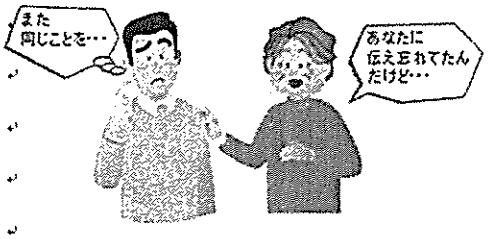
～認知症の主な症状～

火の不始末、ガス栓の締め忘れ



近所で道に迷う

同じことを何度も言う、聞く



物を置き忘れる

『認知症』は、病気です。早めに相談・受診することで予防したり、進行を遅らせることができます。
ご自身やご家族の症状で気になることがありましたら、お気軽に各もの忘れ相談窓口にご相談ください。

もの忘れ相談医一覧(平成21年9月1日現在)

(認知症講座を受講された医療機関です)

医療機関	所在地	でんわ
荒木医院	豊原下町	32－3258
伊藤医院	氷川町調剤	52－8091
岡外科胃腸科医院	岡町谷川	39－0059
岡村医院	橋爪新町	39－5665
片岡レディースクリニック	本町3丁目	32－2344
定永外科整形外科医院	本町3丁目	34－5655
しおさき内科・胃腸科クリニック	日宗久塩浦町甲	38－1700
高田胃腸科内科	大村町	37－7200
高橋医院	坂本町坂本	45－2323
ちりふ内科	豊原中町	32－6000
辻医院	鎮町内田	52－0252
西医院	都賀4番町	37－0157
橋本医院	柳原上町	32－4155
長谷川整形外科医院	海士江町	35－3125
浜田耳鼻咽喉科内科クリニック	大村町	31－7622
林整形外科医院	高下西町	35－2600
病院	新地町	32－4900
福田クリニック産婦人科内科	日宗久中西町	38－0068
福田外科整形外科クリニック	鎮町内田	52－0540

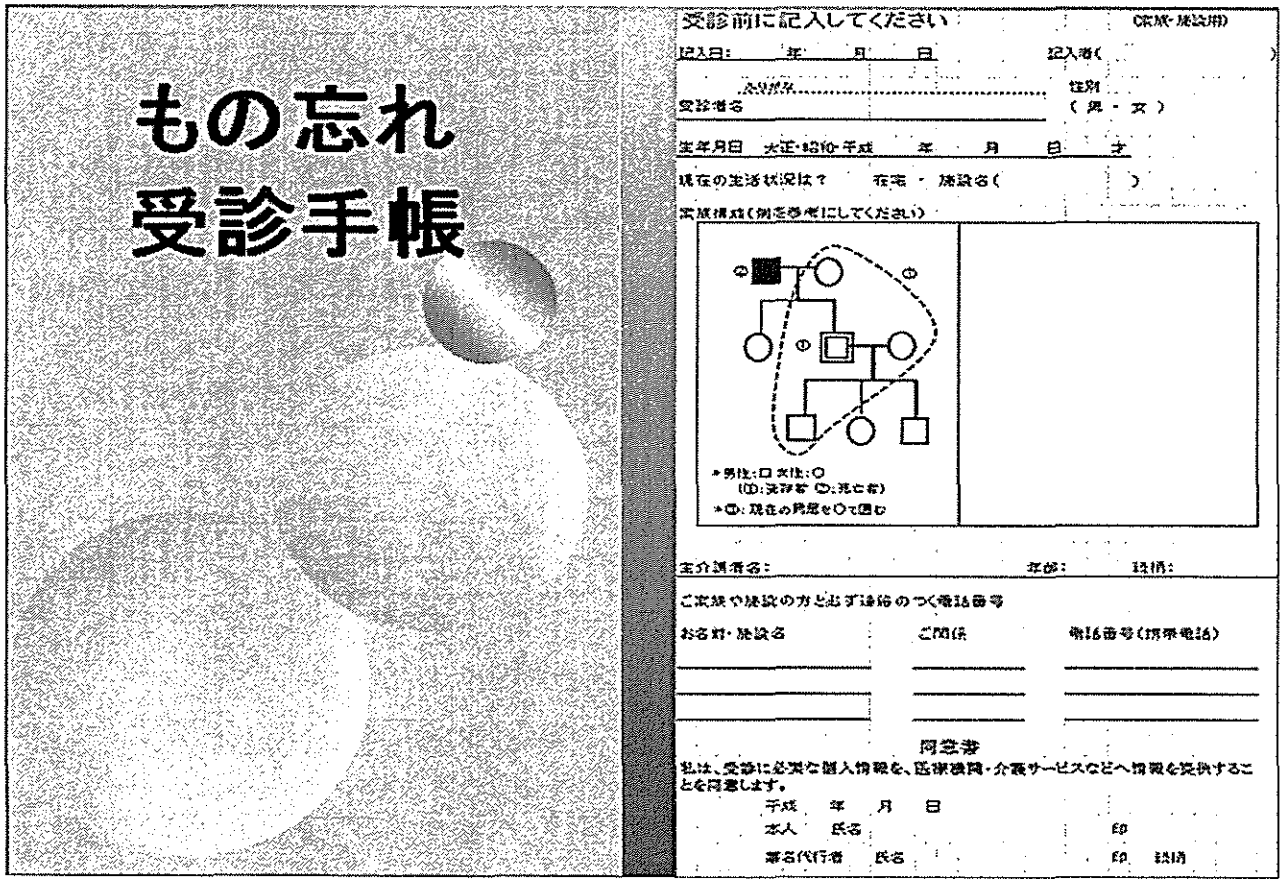
医療機関	所在地	でんわ
ふくとみクリニック	花園町	33－2913
福浦内科医院	松江町	35－0293
平成病院	大村町	32－8171
前田内科医院	鎮町下有佐	52－1310
松岡内科クリニック	通町	33－2766
松本医院	鎮町西出	52－0300
丸田医院	千丁町宮王丸	46－0027
準宮医院	坂本町坂本	45－2127
保田医院	鎮町鎮	52－0037
俣元内科クリニック	永碇町	34－3141
八代更生病院	古城町	33－4205
八代病院	都賀1番町	37－0317
八代市立植原診療所	泉町植原	67－5151
横田診療所	泉町横迫	67－2010

(五十音順)

『もの忘れ』など気になる事がある際は、『かかりつけ医』または『もの忘れ相談医』に、この手帳を持参して相談・受診をしましょう。

もの忘れ（認知症）相談医療機関

八代市郡医師会



受診前に記入してください　(家族・施設用)

身長　　cm

体重(kg)

/	/	/	/	/	/

○アルコール(年数と摂取量)　約　　年間

1日 ビール・酒　約　　ml

○たばこ(年数と本数)　約　年間

1日 約　本

○難聴　有（右・左）・無

○視力障害　有（右・左）・無

○利き手　右・左

○アレルギー　有・無　お薬　　／食べ物

○受診される方について
・お仕事は何をされていましたか？

・最終学歴は？　小学・中学・高校(旧制中学)・大学

・元々の性格は？(当てはまる項目にチェックしてください)

□陽気　□陰気　□まじめ　□社交的　□頑固　□わがまま

□ほがらか　□神経質　□保守的　□せっかち

□その他（　　）

受診前に記入してください　(家族・施設用)

これまでかかった病気

○糖尿病　有・無・不明

○高血圧 または 心臓疾患　有・無・不明

○高脂血症　有・無・不明

○脳卒中(脳梗塞 または 脳出血)　有・無・不明

○精神疾患　有・無・不明

○頭部外傷(打撲・交通事故など)　有・無・不明

○認知症の家族歴　有・無・不明

○その他

（腰痛など）

受診前に記入してください　(家族・施設用)

介護保険

現在の要介護度

要支援（1・2）要介護（1・2・3・4・5）

有効期限　年　月　日～　年　月　日

介護サービス利用状況

要支援（1・2）要介護（1・2・3・4・5）

有効期限　年　月　日～　年　月　日

介護サービス利用状況

要支援（1・2）要介護（1・2・3・4・5）

有効期限　年　月　日～　年　月　日

介護サービス利用状況

要支援（1・2）要介護（1・2・3・4・5）

有効期限　年　月　日～　年　月　日

介護サービス利用状況

受診前に記入してください　(家族・施設用)

先生に伝えたいこと、困っていること

□もの忘れが増えた

□心配しすぎる。何度も同じことを聞く。

□火の不始末がある。

□夜、寝ない。あるいは夜と昼が逆転して、昼間寝ている。

□訪問販売で高額な物を買ってしまうなど、金銭問題がある。

□紛失癖がある。物を隠す。また、物を盗られたと言って、大騒ぎする。

□何もしようとしない。何にも関心がない。(入浴、着替えを嫌がるなど)

□気分が落ち込んで、部屋に引きこもっている。

□ご飯を食べない。痩せが目立つ。

□トイレが間に合わない／トイレの場所が分からない／トイレ以外のところでしてしまう

□昼間、あるいは夜でも家を出ていこうとして、目が離せない。

□家族のことが分からない。

□ありもしない幻が「見える」「聞こえる」ようだ。または、妄想がある。

□大声で暴言を言ったり、物を投げたり、暴力がある。

□薬剤が効かない。社会的なルールが守れない(信号無視など)。

□怒りやすい、興奮しやすい、気分が変わりやすい。

□理解できないような、異常な行動がある。

□食べ物ではないものを食べる。

□近所や家族間、または他の施設利用者とトラブルがある。

□その他（　　）

焦点情報（24時間生活変化）

※記入できる場合のみ

記入者（　　）

時間＼気分	非常に悪い	悪い	どちらでもない	よい	非常に良い	その時の具体的な様子や場面	影響を与えていると考えられる事
	-2	-1	0	1	2		
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
1							
2							
3							

（　　）さんに関わっている人一覧

名前	職種	所属または連絡先	連絡先
例八代花子	ケアマネ	支援事業所	00-0000
例八代太郎	民生委員	○○町内	00-0000

かかりつけの医療機関

医療機関名	連絡先		主治医
例○△病院	□町×－△△	☎00-0000	八代 次郎

八代市郡認知症ネットワークづくりの流れ

■ やつしろ認知症研究会発足　■ 八代市郡市医師会

八代地区の認知症に対する取り組みがスタート

第1回　やつしろ認知症研究会開催

■ 八代市郡医師会で認知症相談医に関するアンケート実施

認知症相談医リストが作成されるも活用には至らず

第2回　やつしろ認知症研究会開催
第3回　やつしろ認知症研究会開催
クリニカル・カンファレンス・セミナー
在宅支援診療所講演会

■ 認知症市民フォーラム開催

八代市長挨拶、熊本大学池田学教授の講演で758名の参加を得る

第4回　やつしろ認知症研究会開催
クリニカル・カンファレンス・セミナー

地域拠点型認知症疾患医療センター
認知症対応強化型包括支援センターの設置

■ もの忘れ（認知症）相談医療機関の設置

認知症相談医セットを配布

認知症の受診窓口を明確にする目的でポスターを掲示

八代認知症対策モデル事業
認知症研究会はシンクタンク的存在に！

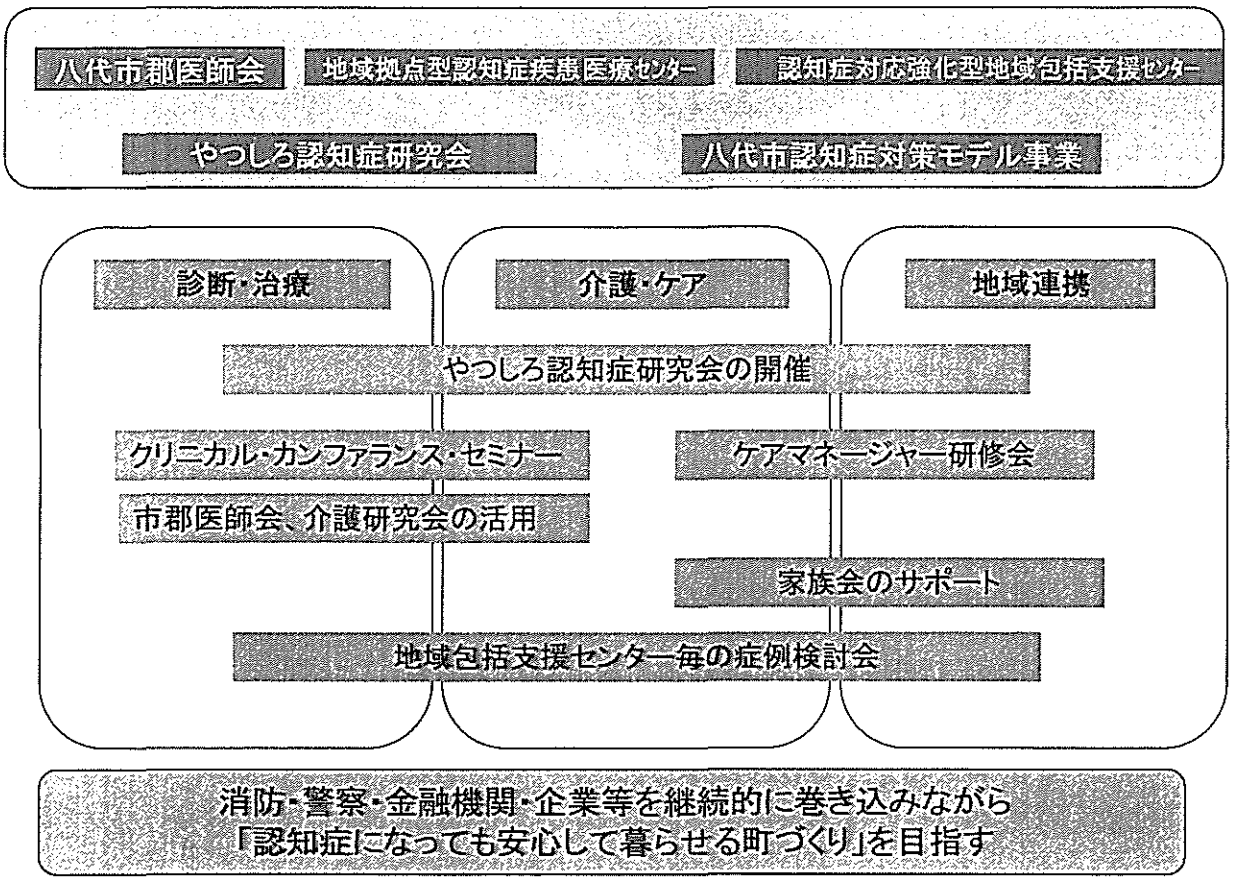
第5回　やつしろ認知症研究会開催

連携のツールとして「もの忘れ相談手帳」・「もの忘れ[illegible]手帳」が完成

もの忘れ相談手帳：市民全戸に配布　　もの忘れ[illegible]手帳：各もの忘れ相談医に配布

第6回　やつしろ認知症研究会開催
第7回　やつしろ認知症研究会開催

次のステップへ



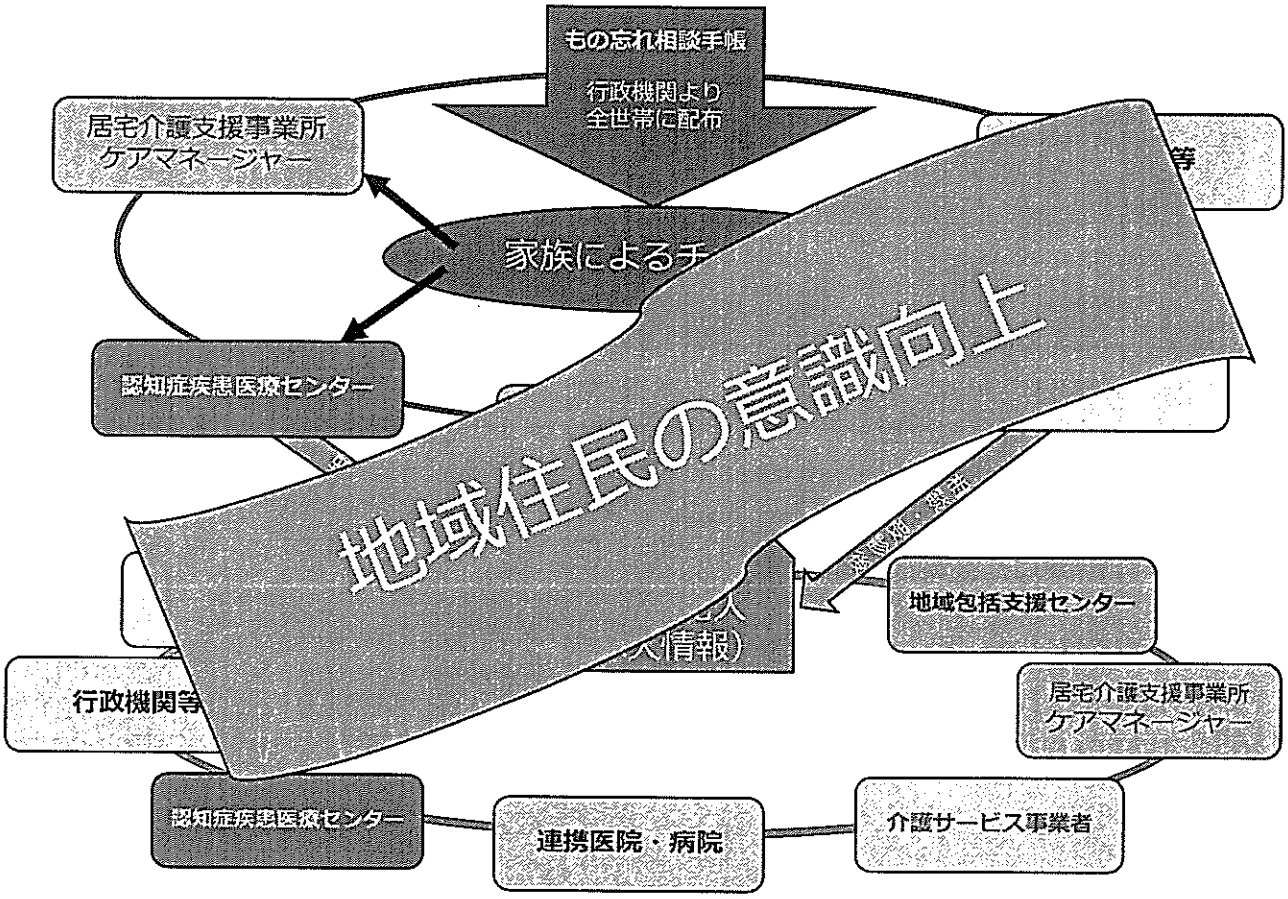
当認知症疾患センターの成果

1．啓発活動等により、地域の方々の認知症に対する認識が変わり、気軽に相談・受診できるようになった。

2．包括支援センターへ月1回訪問をしていることにより顔のみえる関係ができ、受診につながり、その後の連携が取り易くなった。

3．定期的研修会、講演会、事例検討会の開催により、かかりつけ医、ケアマネージャーからの相談件数が増加

4．もの忘れ相談手帳を全世帯に配布できたことで、地域で認知症の早期発見・早期治療について周知できたと思われる。



事例 ①

・83歳女性　夫と二人暮らし　精神科受診拒否

・かかりつけ医 ⇒ 夫 ⇒ 地域包括支援センターへ相談・面接 ⇒ かかりつけ医
⇒ 認知症疾患医療センター受診・診断 ⇒ かかりつけ医

・初期状況
かかりつけ医受診時に近時記憶障害、実行機能障害が見られたため、ドクターより夫へ専門医受診を勧めたが、本人の強い拒否があり、地域包括支援センターにて医療相談となる。

・経過
当該地域包括支援センターより依頼があり、当認知症疾患医療センターより医師と連携担当者が訪問。

⇒ 本人面談の結果、かかりつけ医との信頼関係が保たれていることが判明。

⇒ かかりつけ医へ認知症専門医への受診を勧めてもらう。

⇒ 後日認知症疾患医療センターを受診。

⇒ 専門医による診断後、アリセプト処方。かかりつけ医の元へもどす。3か月毎の専門医受診は継続。

事例 ②

・74歳女性　独居　周辺症状増悪

・隣人　⇒　当認知症疾患医療センターへ相談　⇒　かかりつけ医・地域包括支援センター
　　⇒　認知症疾患医療センター受診・入院　⇒　施設入所

・相談時状況
幻覚・妄想に左右され、昼夜問わず徘徊等、周辺・地域への迷惑行為あり。対応困難。

・経過
隣人より当センターへ相談。かかりつけ医があること、他県在住の娘がいるとの情報を得る。

⇒　娘、地域包括支援センターへ現状報告。併せてかかりつけ医へ情報提供を求める。

⇒　娘、地域包括支援センター担当者、隣人同伴にて、認知症疾患医療センター受診につながる。

⇒　認知症鑑別診断後、当病院へ入院。病状改善後、有料老人ホームへ入居となる。

事例 ③

・77歳男性　独居　未受診

・民生委員　⇒　地域包括支援センターに相談　⇒　認知症疾患センターへ相談　⇒　訪問

・訪問時状況
自宅は、屋根が陥没しゴミ屋敷状態。
降雨時には室内で傘をさして生活。入浴も2年程度していない。家族は娘が1人、県外で生活。過去に半年間娘宅で生活したが金銭面での折り合いが悪く自宅へ戻る。健康保険料・介護保険料も滞納。借金あり。

・経過
包括よりどのように勧めたらよいか？

⇒　地区の民生委員等に見守り等協力を求めるとともに、娘に現状を報告し、本人の生活状況を確認するよう依頼。

⇒　娘が状況確認。認知症疑いを疑い、近隣医を受診。センターからの情報を基に認知症を診断。娘宅で同居となり、介護サービス導入に向け娘在住エリアの地域包括支援センターを紹介。

⇒　本人宅エリアの民生委員等へお礼を兼ねて結果・現況報告。

当認知症疾患医療センターの課題

1．外来予約待ち状況（2ヶ月待ち）

2．外来での待ち時間

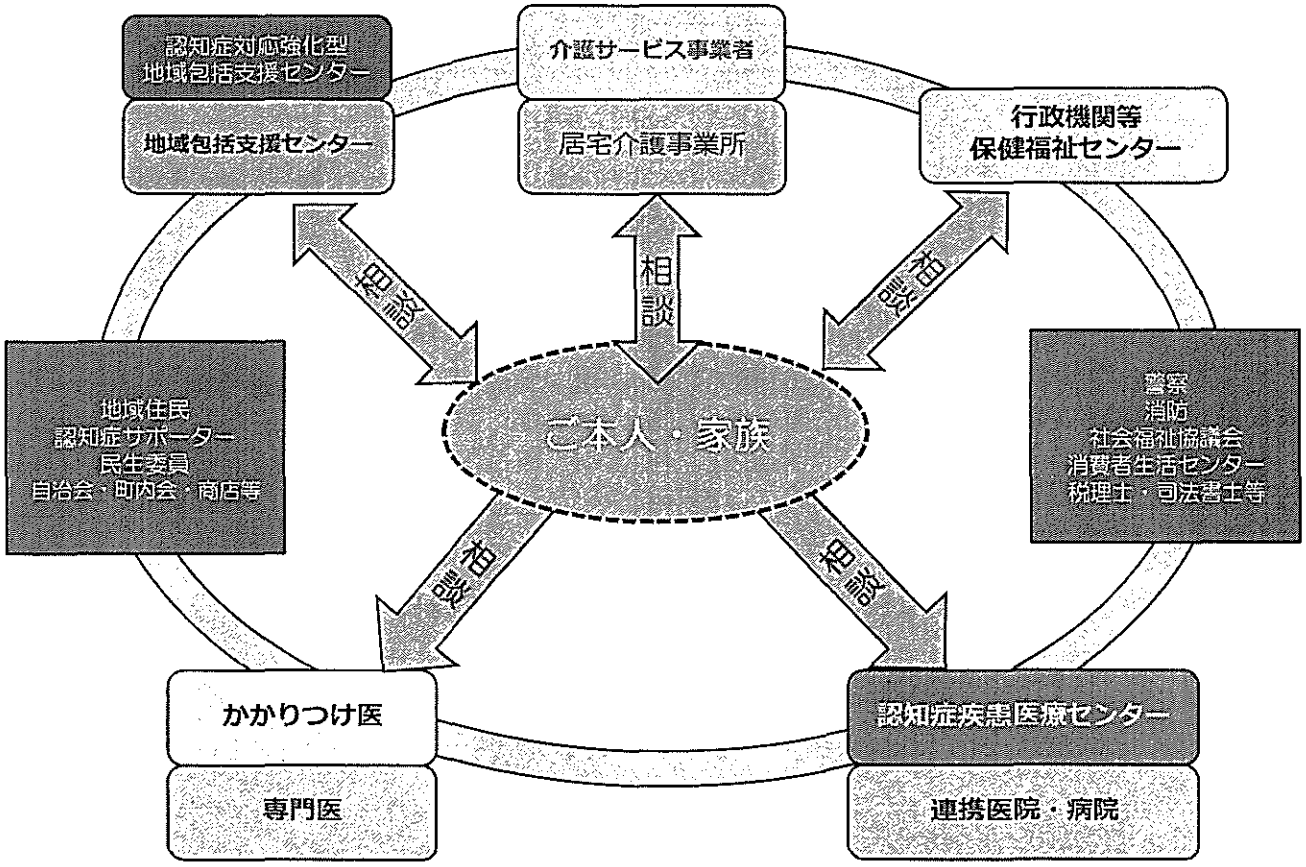
3．かかりつけ医との連携強化
(逆紹介を含めて)

4．入院が必要な方のタイムリーな受け入れ
（緊急入院のための空床確保）

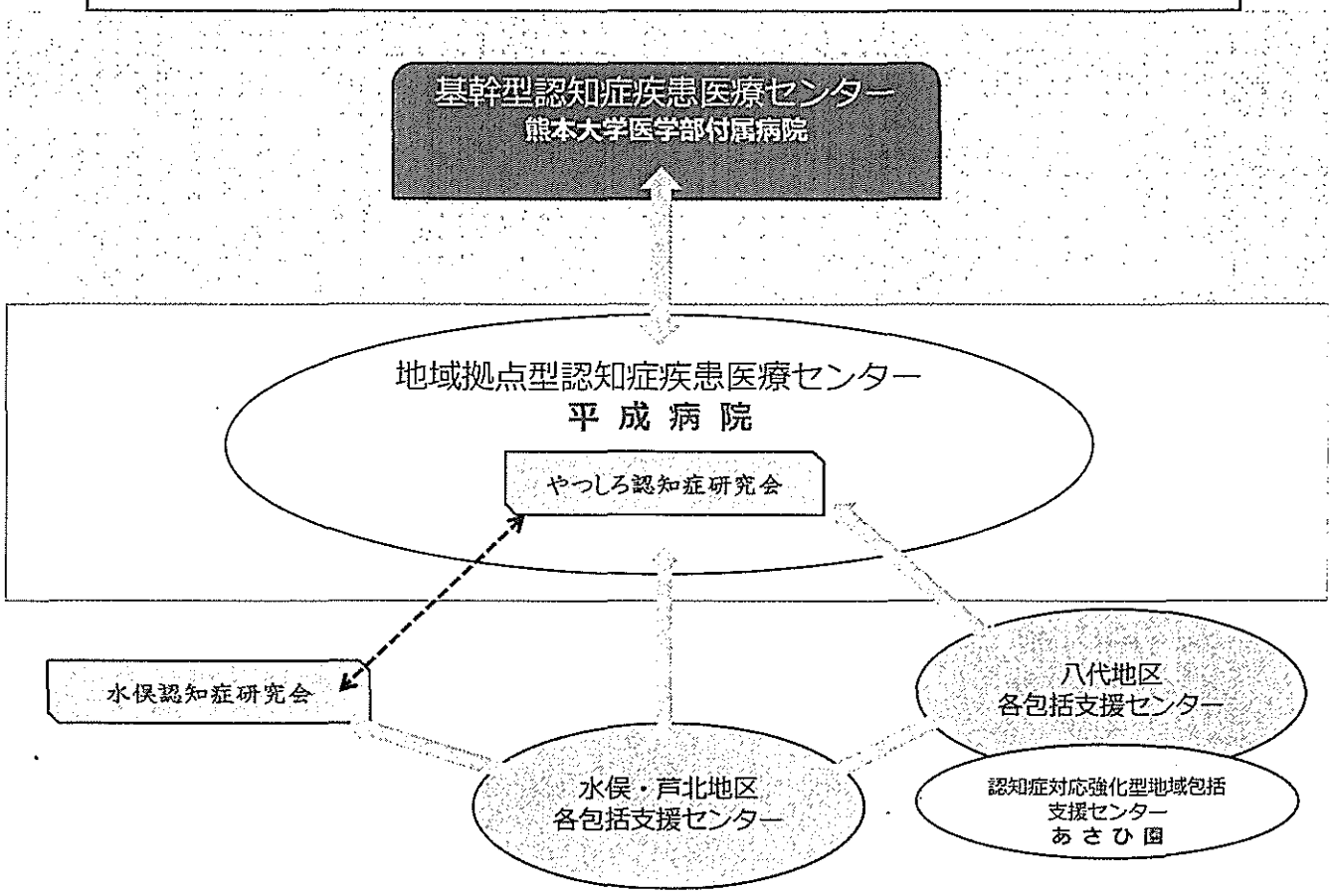
5．重篤な身体合併症を有する方の受け入れ

6．スタッフの質の向上

八代市地域連携図



認知症疾患医療センターの県南地区との地域支援体制



ご静聴ありがとうございました